

コミュニティ・スクールだより

令和3年度の第十小学校第1回学校運営協議会は、5月7日（金）に開催予定でしたが、新型コロナウイルス警戒度（群馬県）が「4」になったことを受け、中止になりました。

今年度の学校運営協議会委員さんを紹介するとともに、委員さんたちから、紙面でご回答いただいた今年度の学校運営協議会取組構想を記述します。

なお、今年度の学校経営方針は、承認されました。（紙面回答者9名全員承認）

※ 【学校運営協議会委員】 （敬称は、省略します。）

役 職	氏 名	所 属
委 員	松村 貞弘	近藤区長
委 員	家泉 均	西公民館長
委 員	岡田 ベッシー	館林市国際交流協会会長
委 員	立川 美奈子	第十小学校支援ボランティア
委 員	須永 敏弥	六郷地区青少推会長
委 員	津布工 清高	第十小学校子ども見守り隊
委 員	松本 淳子	主任児童委員
委 員	蓮見 優子	西幼稚園長
委 員	山本 暁	第三中学校長
委 員	平井 輝行	第十小学校PTA顧問
委 員	新島 邦彦	第十小学校長
委 員	田野入 康裕	コミュニティ・スクールコーディネーター

第1回学校運営協議会時の「熟議」においては、学校教育目標の「ゆめ なかよし げんき」から「ゆめ部会」「なかよし部会」「げんき部会」の3部会の予定でした。委員さんたちには、学校教育目標の「ゆめ なかよし げんき」の趣旨を汲み取りいただきまして、その3部会で「取り組める」「取り組みたい」「取り組む必要のある」内容（お考え）を紙面で回答いただきました。

☆「ゆめ部会」

○ゆめというのは、将来の自分がこうなりたいという具体的な目標なのかなと思う。

様々な職を具体的に見たり、体験したりという経験を小学生のうちからたくさん出来るとゆめが具体化されると思う。地域や公の見学・体験場所が繋がると良い勉強になると思う。

○近藤工業団地見学や体験活動を行うことにより、地元の工業と産業について、キャリア教育の視点から学ぶ機会を作る。

○大西飛行場の歴史について、大西飛行場の管理者であった大西勇一さんからお話を聞く中で、地元で作られた飛行場の歴史等について学ぶ機会を作る。

○保護者自身も子どもと一緒にゆめについて考えたり、話し合ってもらったりする。

○将来のゆめや自分のやりたいことのために、何をすべきか、各クラスで話し合い、児童のゆめ発表も行い、将来に希望がもてるキャリア教育の推進をする。

○地域の身近な企業の方の専門職としての講話や見学等

○ゆめの実現に向けた基礎学力の向上

○警察署、消防署、会社等に出向いて見学し、体験談を聴く。

○放課後や土・日を使つての児童一人一人の学習課題解決にあたる取組

○保護者を対象とした教育相談体制の整備（地域の教育力活用）

○実技を伴う学習の補助員の整備（地域の教育力活用）

☆「なかよし部会」

- 児童の心を育む指導として、「居場所・居心地のよい学級づくり」や「自己有用感を高める指導」「学級内の心の交流」等。すでに活動されている「あいさつ運動」「異学年交流」「縦割り活動」等の活動の充実
- 今は一人が好きでアニメやゲームをひたすらやっている子も多く、上手く仲間と交わるのが難しい場合もあると思う。学校で発表するチャンスをつくったり、意見を言い合ったりして、コミュニケーション力をつけられるとよい。
- 地域における学習支援や体験活動を行う「放課後子ども教室」を、今年度より三野谷公民館及び西公民館で実施する予定。月2回程度であるが、十小の保護者・児童に働きかけ、参加者を募り実施したいと考える。
- 人との関わりの基本である「あいさつ」運動の推進
- 十小見守り隊の方による「あいさつの輪」を広げる。
- 心の情操教育（読み聞かせの推進、自然とのかかわり）
- 安定感や規範意識を育てられるよう、家庭教育の啓発や学習の中での支援
- 子供同士の関係作りの基本となる善悪の判断、マナーは、しっかり身に付けさせたいものです。（ありがとう、ごめんなさい、・・・etc） 家庭でも子供の気持ちに寄り添い、家庭の考えや価値観を子供に伝えていく家庭力の向上に力を入れる事も大切かと思います。
 - ・保護者講座・講演（コロナ収束後）
 - ・具体的な子育て悩みQ & A
 - ・交流会（親同士のつながりを広め、子供達の仲間作りを高める。）

☆「げんき部会」

- 衛生面、安全面、体力面とバランスよく学校全体で取り組まれていることを、家庭や地域と連携して一層の充実が図れるとよい。
- 地元の福祉施設等の方からお話を聞いたり、施設の見学や体験学習を行う。
お年寄りや体の不自由な方々への正しい理解や人権等について学び、豊かな心を育む機会とするため、福祉施設や地域に住むお年寄り宅を訪問したり、児童が書いた手紙や育てた花等を届けたりして、学校での学びがより豊かで広がりをもつようにする。
- 地域の防災訓練に児童が親子で参加し、地震等の緊急時の対応を学ぶ。
西公民館で毎年行っている「地域防災訓練」に、児童も参加し、緊急時の対応について親子で学ぶ機会を作る。併せて、十小体育館（西公民館行政区の緊急避難場所の一つに指定されている）で、緊急避難について体験活動を行う機械とする。
- 「げんきな子」は、早起きして朝ご飯をちゃんと食べて運動する子というイメージがある。「体を動かすとお腹が空いてたくさん食べて、やる気が出て、元気になる！」と良い循環になると自然と大きな声であいさつしたり、前向きになると思う。朝ごはんは、1日のはじまりです。「早寝、早起き、朝ごはん」運動を行う。
- 体を動かす楽しさ、遊びを通じた基礎体力作り
- 体育の授業における補助員の配置（地域の教育力活用）
- 放課後を使った運動の実施（地域の教育力活用）
- さまざまな経験、実体験の積み重ねは、人格形成の大きな柱になるかと思います。公民館や幼稚園、近在の高校と連携を取り、出来る体験活動を進めていく。
 - ・幼・保育園児への絵本の読み聞かせ
 - ・公民館との協同野菜作り、収穫体験
 - ・高校生との交流会（遊び、音楽交流）

保護者及び地域の皆様、ご意見やご提案等、よろしくお願いします。

十小コミュニティ・スクール事務局【74-8733（担当：田野入または森脇教頭）】